

# 入中1年人権だより

徳島市 八万中学校  
1年生 第7号  
2022年10月11日  
編集・発行 吉成正士

10月4日、1学期に引き続いて、第2回の学年全休人権学習を開きました。今回のテーマは、「SDGs」。2015年に国連で採択された、「持続可能(SUSTAINABLE: サステイナブル)な開発(DEVELOPMENT: ディベロップメント)目標(GOALS: ゴールズ)」です。そこには達成するための17の目標が掲げられています。その目標に向けた取り組みを全世界で進めていかないと、人類の社会生活が、「持続不可能になる」というのです。

「多くの研究者が言ってるから」といって、本当に正しいかどうかは分かりません。が、感覚的に、「これはおかしいぞ」とか、「これは違うよな」と思ってしまうような現実、確かに身のまわりにあるように思います。ならば、本気で変えていきませんか、という学習の時間になりました。

今回も、みなさんの感想をもとにまとめてみました。どうぞ読んでみてください。

## すべて人間に返ってくる、だから

■食べ残し、ポイ捨て、戦争、ジェンダーなど、いろいろな人の話を聞いて。

食べ残しは自分たちの好きなものを好きなだけ食べたり、嫌い・苦手なものは減らしたり捨てたりできるけど、もしその姿を、世界で苦しくて何も食べられない人が見たらどうでしょうか。たくさん食べ物があるのに、どうして捨てるんだ、とか、ありがたい食べ物を捨てるなんてあり得ない、と感じる人もいます。僕は無理をせず、自分が食べられる量にして、必ず完食できるように頑張っています。もしそれが、クラス、学年全員ができれば、食品ロスを減らすことができると思います。これからも頑張っていきたいです。

ポイ捨ては、持つのが面倒くさい、持って帰るのが嫌と思っている人もいます。でも、ポイ捨てをすると、海に流れてしまい、魚や亀が間違っただけで飲み込んでしまう。それを次は僕たちが食べる。結局ポイ捨てをしようとする、人間に返ってくる可能性があります。なので、少しのゴミでも、ボランティアとして活躍できるようにしたいです。

戦争は一番の人権問題です。無差別に人を殺したり、関係のない人々にも被害を出す。今、ウクライナとロシアでは戦争をしており、関係のない人たちが巻き込まれています。誰もそんな社会は求めてないと思います。みんな人を尊重し合い、誰もが幸せに生きていく社会を目指していきたいです。 2組OR

「情けは人の為ならず」人にやさしくすると、巡り巡っていつか自分に還ってくる。良いこともそうですが、悪いことも、巡り巡って自分に還ってくるものなのかもしれません。

瀬戸内の海に行くことがよくあるのですが、自然の海岸は本当にゴミだらけです。目を背けたくなるくら

いに。そのゴミを拾い続けている人のテレビ番組を見たことがあります。拾っても拾っても、来てみればまた前と同じ光景。魚の姿は激減したといいます。ゴミだけが原因ではないでしょうが、いずれにしても、以前のような姿に戻して、次代に、未来の子どもたちに受け渡したいものです。今を生きる私たちの責任として。

そのためにも、まずポイ捨てをしないこと。ゴミを見つけたら拾うこと。それが自分の出したゴミでなくても。そして、ゴミを出さない社会をめざすこと。みんなが日ごろ学んでいる賢い知恵を結集させて、「ゴミは資源」という社会につくり変えていきませんか。



## 「④質の高い教育」がないと、変えようにも

■吉成先生からの「ごめんなさい」が心に残りました。前に日野原重明さんが書いた、「十歳のきみへ——九十九歳のわたしから」という本に、日野原先生が、「私たちにできなかった世界平和の実現を、きみたちに託したい」というような内容のことが書かれていました。その時私は、今の大人ができなかったことを私たちにやれと押しつけるなんて、と思いましたが、未来を担う私たちだからこそできると今は思っています。自分たちの子、孫世代に謝らなくてもいい社会が、世界中どこでもあるようにするのが私たちの役割だと思います。

私は、SDGsなんて2030年までに達成できるわけないと思っていました。でも今は、みんなの発表を聞いて、すべてに共感できたとし、SDGsは必ず達成すべき目標であり、一人一人の意識次第で世界を変えることができると思いました。

また吉成先生は、「日本に生まれてきて良かった」と思うのは他人事にはしておっしやいましたが、一つだけ、その一つについては、そう思ってもいいのではないかと思います。それは、世界を知れるからです。自分たちが豊かな暮らしだから、貧しい暮らしに疑問をもち、変えていける。もし私が貧しい暮らしをして教育を受けられなかったり、飢餓に苦しんでいたりしていたら、それが当たり前だと思ってしまうかもしれない。当たり前だと思っているものは、変えようと思わないので危険です。自分の行動で一人でもいいから、危機から救いたいです。 2組KM

日野原重明さんは、もう亡くなってしまいましたが、

百歳を過ぎても診察にあたる高名なお医者さんでした。みなさんが読めるような本もたくさん書かれていて、すごく勉強になります。

日野原さんも言うように、私たち大人は、年齢で言えばみなさんより先にあの世に旅立ちます。私たちも、そうやってバトンを託されてきました。残念ながらすべてを解決してバトンを渡すことはできそうにもありませんが、残った宿題をどうかよろしくお願いします。私たちも命続く限りできる努力をしていくので、それまで共に頑張っていきませんか。

「日本に生まれてきて良かった」と思えるのは、このような教育を受けられるからですよね。そのことを通して世界を知れるから。でも、その教育というのは、「SDGsの理念」にもとづいた教育です。もしそうでなければ、同じ過ちを繰り返すような教育であれば、もと来た道に戻ってしまいかねません。だから、そうならないような、「④質の高い教育」がみんなに必要です。まだまだ「SDGsの理念」が普及しているとはいえません。世界でも、日本でも。ましてや、SDGsが当たり前でない時代を長くすごしてきた私たちには、なじみが薄いものです。だからこそ、SDGsを学んだみなさんが、年上の人たちに伝え、教えていくことです。それは、差別をなくしていく道筋とも同じです。



## 分裂じゃなく、「⑪パートナーシップで」

■僕はSDGsについていろんな人の思いを聞いて、いろいろな考え方があることを知った。どのくらい今の地球が大変なのか、または人がどのようなことで苦しんでいるのか、みんな見ているところは違ってたし、その対応の仕方も違って、よく勉強になった。みんな得意なもの、苦手なものは違うと思うけれど、その長所を合わせれば、小さな力も大きな力になると思った。

誰一人も残さないようにするためには、少しでもいいから環境のことを考える。今取り残されている人のことを考えることをして、次につなげることができればいいと思う。残された人を放っておくのは違うと思う。

今からでも未来は少しずつ変えることができるので、この地球を美しく、次の世代へ次々とつなげられるようにしないと、後から苦しむのは自分たちだと思うので、広く世界を見ておく必要があると思いました。

5組YK

聞いていると、本当にいろんな思いや考え、意見があることが分かります。それは、聞いて初めて分かるものです。専門家に詳しいことを聞くことも大切でしょう。でも、身近な友達がどんなことに気づき、思い、考えているのか。そのことを通して様々な学びを得ることも、大切な学びなんですね。それが、「人を知る」

ということなのです。

また、どんな人にも得意・不得意はあります。ちょっと人と違うからといって、悪口を言ったり、人をのけ者にしたり、いじめたり。そんなことでは、SDGsは達成できません。パートナーシップでみんなが力を合わせないと、SDGsは達成できないということです。もしみなさんの身のまわりでそんなことがあれば、必ず言ってあげてください。「今、ここで、そんなことをしてる場合じゃないよ」と。「もっと大きな問題を解決していくために、みんなが力を合わせなきゃ」と。

## 残食ゼロ！捨てないように買う！

■私は全体で発表をし合って、自分ができることをすることがすごく大切だと思いました。私は給食を残してしまっていたけど、今日みんなの発表を聞いて、できるだけ残さず食べようと思いました。行動に移して、できることから実践をしたり、小さな行動をしたりしてSDGsの達成にまで少しでも近づけたらいいと思いました。

キレイな水が使えていない小さな子が毎日800人も亡くなっていると先生に言われて、とても驚きました。お腹いっぱいにご飯が食べられることは当たり前ではないので、感謝をしてご飯を食べられるようにしたいです。生活している中で、すべてがSDGsにつながっていることが分かりました。

5組KA

日本は食料の3分の2を海外からの輸入に頼っています。分かりやすく言えば、給食の3分の2は国内産ではなく、海外から輸入しているようなものということです。にもかかわらず日本では、一人1個分のおむすびを、1億2千万人全員が、毎日捨てているような食品ロスをしているということです。海外から食料を輸入しているということは、海外の食料を奪ってきているということ。でも日本では、食べられないからといってそれを廃棄している。どうしてこんなことになってしまっているのでしょうか。

北海道を中心に暮らしているアイヌ民族のことは知っていますか？ アイヌでは、山の産物は必要以上に採らないのだそうです。それは、山の生き物たちのため、来年以降の暮らしを守るため、未来を生きる子孫のためなのだそうです。それを現代日本人は、今が良ければ、自分がよければ、と必要以上に食料をとりすぎているわけです。アイヌ民族に限った話ではありませんが、そんな生き方から、自然との共存や共生を真剣に考える時が来たといえるのではないのでしょうか。

8号につづく

